

大学

企画課管理用	研	—	C	—	1
	社	—	A	—	1
	社	—	A	—	2

推進主体	学長室研究支援センター
責任者	学長室部長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
研	—	C	①国内外の大学、研究機関、企業等との協定や連携の推進による研究者交流の活性化	令和4年度	令和9年度	あり(予定)
社	—	A	①SDGsに関連するテーマを扱う共同研究プロジェクトの促進	令和4年度	令和9年度	あり(予定)
			②文理横断型の新たな社会基盤の整備に向けた教育・研究の促進	令和4年度	令和9年度	あり(予定)

① 目的・内容

令和21年度に本学があるべき姿＝ビジョンを実現するため、国内外の大学、研究機関、企業等との協定や連携の推進による研究者交流を活性化させる。その他、本事業は以下の分類を統合した実施計画である。

- ・研—C①国内外の大学、研究機関、企業等との協定や連携の推進による研究者交流の活性化
- ・社—A①SDGsに関連するテーマを扱う共同研究プロジェクトの促進
- ・社—A②文理横断型の新たな社会基盤の整備に向けた教育・研究の促進

【新学術研究「宇宙利用論研究(仮)」創成”Space-AX”プロジェクト】

1. 新学術研究「宇宙利用論研究(仮)」創成
 宇宙利用論研究(英名:Space Utilization theory research)(仮)は、地球を含むすべての天体・宇宙空間の開発及び利用を研究対象とした新学術研究です。これまでの人文・社会・自然科学が積み重ねてきた基礎から応用に至る研究を連携・融合した総合知によって研究活動を行う。

事業名であるSpace-AXは、宇宙のSpaceと学術変革(A:アカデミック、X:トランスフォーメーション)を組み合わせた学習院大学独自のプロジェクトネームである。宇宙利用論研究(仮)の目的は、学習院大学の理念にある「文化の創造発展と人類福祉への貢献」である。

2. 実施体制
 研究代表者:理学部・物理学科・渡邊匡人・教授
 研究分担者:法学部・法学科・小塚荘一郎・教授
 研究分担者:国際社会科学部・国際社会科学科・乾友彦・教授
 協定企業(予定):Space BD株式会社

3. 宇宙利用論研究(仮)領域
 各研究領域が連携・融合し新たな研究領域「宇宙総合知領域」を生産する「総合知エコシステム」を形成する。

- ・Space-AX1 宇宙イノベーション領域 宇宙利用による技術革新を研究対象とした領域
- ・Space-AX2 宇宙国際連携領域 宇宙活動を通じた国際協力・地域振興を研究対象とした領域
- ・Space-AX3 宇宙ヒューマニティ領域 宇宙と人類の文化創造を研究対象とした領域
- ・Space-AX∞ 宇宙総合知領域(Ax infinity) 各領域が連携・融合することによって形成される研究領域

本事業は、国際センターと連携して実施する予定である。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

本事業は新学術研究の創成を行うため、令和4～9年度にかけて体制を整備するため、以下の通り定性目標を設定する。

- ・学内推進体制構築(複数の学部教員及び事務組織による教職協働体制構築)
- ・国内外の大学、研究機関、企業等との協定や産官学連携の推進
- ・SDGs共同研究課題設定(例:宇宙法関連、宇宙実験による技術開発、宇宙開発と地方創成)
- ・文理融合型の教育研究体制整備(例:オープンキャンパス、入学前教育、全学共通科目、国内・海外研修&インターンシップ開発)

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定	→ → → → 事業計画検討	→ → → → → → → → ②到達目標(定性目標)への取組	→ → → → → → → →	→ → → → → → → →	→ → → → → → → →	→ → → → → → → →	→ → → → → → → →
							前年度までの結果による新たな目標への取組

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・学内推進体制構築(複数の学部教員及び事務組織による教職協働体制構築) ・国内外の大学、研究機関、企業等との協定や産官学連携の推進 ・SDGs共同研究課題設定(例:宇宙法関連、宇宙実験による技術開発、宇宙開発と地方創成) ・文理融合型の教育研究体制整備(例:オープンキャンパス、入学前教育、全学共通科目、国内・海外研修&インターンシップ開発) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学内推進体制構築 ・国内外の大学、研究機関、企業等との協定や産官学連携の推進 ・SDGs共同研究課題設定 ・文理融合型の教育研究体制整備 以上実施済み。 <p>今後の課題は年度末に総括予定。</p> <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和5年度 (2023年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・学内推進体制構築(複数の学部教員及び事務組織による教職協働体制構築) ・国内外の大学、研究機関、企業等との協定や産官学連携の推進 ・SDGs共同研究課題設定(例:宇宙法関連、宇宙実験による技術開発、宇宙開発と地方創成) ・文理融合型の教育研究体制整備(例:オープンキャンパス、入学前教育、全学共通科目、国内・海外研修&インターンシップ開発) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学内推進体制構築 ・国内外の大学、研究機関、企業等との協定や産官学連携の推進 ・SDGs共同研究課題設定 ・文理融合型の教育研究体制整備 以上実施済み。 <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和6年度 (2024年度)	令和5年度同様に実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・学内推進体制構築 ・国内外の大学、研究機関、企業等との協定や産官学連携の推進 ・SDGs共同研究課題設定 ・文理融合型の教育研究体制整備 以上実施済み。 <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和7年度 (2025年度)	<p>前年度同様に実施予定、及び前年度までの結果による新たな目標へ取り組む</p> <p>【新たな目標:産学連携・地域連携の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇宙産業展への出展 ・産業界との教育プログラム開発 ・大樹町との地域連携プログラム開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・学内推進体制構築 ・国内外の大学、研究機関、企業等との連携の推進 ・SDGs共同研究課題設定 ・文理融合型の教育研究体制整備 以上実施済み。 <p>新たな目標に掲げた事業として「スペースウィーク出展、Space BDとのカリキュラム開発、大樹町による宇宙利用論講義実施」に取り組んだ。</p> <p>★進捗段階:「展開完了」 宇宙利用論開講3年が経つため実施展開から変更する。</p>
令和8年度 (2026年度)	令和7年度同様に実施予定	

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
(2022年度 令和4年度)		
(2023年度 令和5年度)		
(2024年度 令和6年度)		
(2025年度 令和7年度)		
(2026年度 令和8年度)	<ul style="list-style-type: none">・学内推進体制構築(学部教員、研究支援センター、外注先による推進体制構築)・国内外の大学、研究機関、企業等との協定や産官学連携の推進・SDGs共同研究課題設定・文理融合型の教育研究体制整備	